

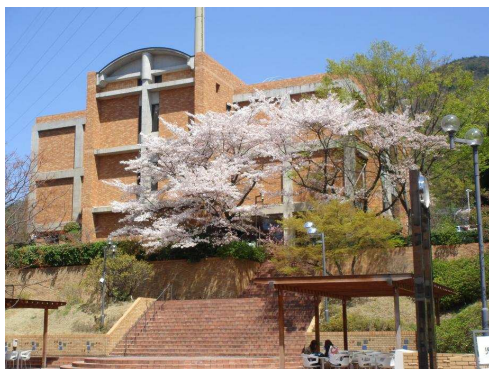
約半年間続いたプレッシャーからやっと解放され、修了式を迎えた時京都橘大学看護教育研修センターで学べて良かったなと改めて実感しました。

志を同じくするとはいえ、今まで接点のなかった人間が、各地から多士済々集まりました。今、思い返しても一期生は個性的なキャラクターが集まり、厳しくも楽しい日々を過ごしました。その思い出がこれから入校を考える皆さんに少しでも伝わればと思います。

京都橘大学看護教育研修センターは、山科区の大学キャンパス内に位置し、自然に恵まれた環境で空気も澄み、校内には四季折々の木々が植えられており、勉強に疲れた私たちの心を癒してくれました。研修中は体調管理も大切ですから、毎日の学食は種類も多く(カロリー表示もある)、健康管理に役立ちました。そしてお財布にも優しいといったメリットもあります。また看護学部もあることから図書館には医療・看護関係の書籍があり、文献検索にも役立ちました。研修生専用の PC もあり、情報収集やグループワークなどに活用でき、設備的には他の研修機関より恵まれていると思います。

京都という土地で唯一の楽しみだったのが、課題を終えた後の京都散策でした。研修中にゆっくり観光できた同期生は少ないと思いますが、祇園祭や夏の鴨川の川床、南禅寺や清水寺の秋の紅葉などは気分転換になりました。舞妓さんに変身した同期生もいたようです。現在でも横のつながりは強く、症例検討会も開催しています

専門科目を始め諸先生方から受けた講義はとても興味深く、非常に有意義で現在の実践に活かされています。半年間の厳しい研修を乗り越えるには、苦しみを分かち合える同志、学び易く安らげる環境が必要です。その条件をクリアでき、思い出に残る研修生活を送ることができるのが京都橘大学ではないかと思います。



清心館の情報メディアセンターへ
通いました。



基本！ ①朝食は必ず食べる。
②毎日しっかり勉強する。

入学前から覚悟はしていましたが、京都橘大学看護研修センターで学んだ半年間は、今まで生きてきた中で一番勉強をし、勉強に専念できた半年間でした。初めの一ヶ月は座って授業を受ける事に慣れず眠ってしまうこともありましたが、一ヶ月もすると授業に集中できるようになりました。その頃には課題とテスト勉強に苦しめられました。皮膚・排泄ケア認定看護師として第一線で活躍している方や有名な先生方が行う授業は興味深い内容のものばかりでした。今までの経験やアセスメントの深さ、ケア方法を聞いた時に、認定看護師になってやれるのだろうかと不安になり、認定看護師としての責任の重さと、知識を維持していくために学習の継続の必要性を感じました。一番思い出深いのはトピックペーパーです。大学の図書館を利用できることで文献などが手に入りやすく学習に取り組みやすい環境でしたが、予想以上にまとまらず時間にも追われ苦戦を強いられました。しかし、その分完成した時の達成感は大きく、合宿をしたり意識を失いそうになりながら朝まで文章を考えていた事などいい思い出です。大変な半年間でしたが、一緒に認定看護師を目指している仲間がいたことで救われました。その仲間と出会えたことが一番の収穫です。



学び終えた笑顔が素敵です！



勉強会終了後のひとこま

京都橘大学看護教育研修センターでは研修修了後に全期の修了生を対象として、各々が現場で遭遇した難渋事例のケアに関する「事例検討会」を年に2～3回実施しています。この会は修了生の要望で始まったもので、先生方に協力を頂いていますが主体は修了生である私たちです。

「事例検討会」という名称ですが事例以外にも、管理システムや運用マニュアルなど日々の業務で遭遇する様々な問題についても相談し合っています。

同期だけに留まらず先輩の意見を聞くことができる場があるということはとても心強いことです。また地域性や規模が似た施設の方の活動状況はとても参考になります。皮膚・排泄ケア認定看護師の仕事は多岐に亘り、資格取得後も目の前の患者さんのケアに悩むことが少なくありません。そんな時、このようなネットワークがあるということはとても心強いものです。今後も5期生6期生と仲間を増やし、長く続けていきたいと思っています。